静脈内鎮静法（静脈麻酔）による歯科治療に行って来ました！！

桜井市手をつなぐ育成会　K･Y

前回 令和 2年３月、息子が初めて静脈内鎮静法治療をし、今回 2回目となります。

静脈内鎮静法は、歯科診療に対して不安や緊張、恐怖心が強い患者や多数の虫歯により集中的な治療が必要な方向けの治療です。

静脈内鎮静法による治療では、点滴をして静脈に鎮静薬を投与することで、不安や緊張を和らげリラックスした状態で治療を受けることができます。

準備として鎮静薬を筋肉注射します。これにより少しボーッとした状態で診察いすに座り、点滴が始まり点滴から鎮静薬が投与されます。その後、モニターの装着、血圧、心電図、動脈血酸素飽和度、脳波等が測定され睡眠状態になったら治療が開始されます。この時点で私は待合室での待機となります。随時、先生が状況の説明に来てくれましたので安心して待つことができました。

治療時間は１時間位ですが、準備や回復の時間を含めると２時間程度でした。治療終了後はふらつきや眠気がなくなるまで休みましたが少し足元がおぼつかなかったので衛生士さんが車椅子で駐車場まで運んでくれました。帰宅後は状態を確認する連絡がありました。

治療は午前９時から予定されていましたので前日２２時以降は食べ物をとらない、当日は午前７時以降は絶飲絶食です。これがなかなか大変で、歯科に行くことは写真を見せて理解はしていたのですが食事を取れない事はなかなかわかってもらえず冷蔵庫を開けたり閉めたり、お皿を持って来たりと出発するまで続きました。これも一つの闘いでした！

静脈内鎮静法を受けるにあたりとても不安でしたが、事前に手順やメリット、デメリットな ど詳しく丁寧に説明があり納得のもと同意し受けました。

診察日が増えた事もあり時間的な余裕もありゆったりと静かな環境で治療して頂くことができました。

歯科治療レポート（静脈内鎮静法）

五條市手をつなぐ育成会　　Ｅ・Ｉ

Ｔは知的障害者重度(Ａ１)現在46歳の男性。歯医者さんが大の苦手で、治療中は治療台に網で拘束しても汗だくで動くので大変です。

奥歯を抜くことになり「静脈内鎮静法治療」の提案と丁寧な説明を受け、納得してお願いしました。

「当日は９時から治療。絶飲食で８時半までに歯科診療所に着くように」との指示でした。Ｔに朝食抜きは 説明しても無理だと思い、策を巡らして出発時間ぎりぎりに起きて即出発。Ｔは寝ぼけたまま歯科診療所に着き歯科衛生士さんの優しい対応でむずかることなく治療室へ入りました。

約２時間後ぼーっとした状態で待合室へ帰り３０分ほど経過観察の後、歯科診療所を出ました。

もう昼食時間になっていましたが時間の観念が無いのが幸いして、指示された１４時頃まで我慢することができました。睡眠状態で治療（抜歯）してもらったので恐怖も無く、歯科の嫌なイメージが払拭され、今では網による拘束無しで治療台に座って治療を受けています。

静脈内鎮静法治療が功を奏した事例です。